

令和4年3月2日

沖縄県議会議長

赤嶺 昇 殿

派遣議員

団長

照屋守之

上里善清

玉城武光

仲村未央

次呂久成崇

「軽石の大量漂流・漂着に関する意見書」の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

別紙

「軽石の大量漂流・漂着に関する意見書」の要請議員団報告書

1 派遣議員

団長 照屋守之
上里善清
玉城武光
仲村未央
次呂久成崇

2 派遣目的

令和3年第10回議会（11月定例会）の11月25日の会議において議決された上記意見書を関係要路に要請するため。

3 派遣期間

令和3年12月16日（木）及び12月17日（金）（2日間）

4 要請日程

別紙のとおり

5 要請概要

本年8月に発生した小笠原諸島・福德岡ノ場の海底噴火に由来すると見られる軽石が、10月初旬頃から沖縄県内各地の海岸や漁港・港湾等に大量に漂着し、沖縄県では、主に漁業や観光、住民生活、自然環境等、県経済から自然環境分野にわたり多方面において重大な悪影響が生じている。

このような状況に対し、軽石の影響の長期化を防ぎ、様々な分野において迅速かつ継続的に対応していくため、国による支援が必要であることから、特段の措置を講ずるよう強く要請した。

6 要請に対する答弁の要旨（要請順）

○ 農林水産大臣 金子原二郎

農林水産大臣不在のため、武部新農林水産副大臣へ手交した。

(農林水産副大臣 武部 新)

軽石の被害は、水産庁―農林水産省としても非常に大変重要な問題と受け止めている。

沖縄だけではなく鹿児島も東京の伊豆諸島も、かなり広範囲にわたって軽石が出てきているが、やはり漁業の被害でいうと、沖縄の皆様方が軽石で漁港を出られないということで、そういった被害もかなり出ていると聞いている。また、船に石が入り漁船に被害が出ているということもあるので、我々としては災害復旧の事業として取り組ませていただき、しっかり支援させていただきたいと思う。今後、軽石がどのような動きになるのか、被害がどうなっていくのかということも注視しながら対応したい。今日お越しいただいたことをしっかり受け止めたいと思う。

(質疑応答)

Q 県では11月定例会で、軽石対策として27億円の補正予算を組んでおり、今それぞれ被害を受けている市町村からヒアリングを行っている。モズクの養殖など漁業関係に相当の被害が出ている。具体的な内容と金額は市町村から県のほうにまだ提示されていない状況があるが、国においても180億円余りの全国的なコロナ対策の予算が臨時国会に計上されると聞いており、そこも含めて引き続き御支援方お願いしたい。

A 早く災害復旧事業の認定をという要請をいただいているが、災害が起きたら査定前に事前着工ができるような仕組みになっている。漁船にも結構被害が出ていると聞いており、保険を適用しながら、修理という部分はもちろん大丈夫であるが、特に軽石が入ってエンジンが壊れるので、入らないように海水をこす機械を導入したいといった支援も我々のほうで用意しているので、しっかりサポートさせていただきたい。

水産庁から3名派遣しており、実際に現場の皆さん方と技術的なアドバイスも含めて対応させていただいているが、現地に行った職員からも、やはり漁船に被害が出るから怖くて漁業に行けないという方が結構いて、800隻以上漁に出ていないという話も聞いている。共済に入っていればその減った分については共済でカバーが可能であり、災害には災害復旧でさせていただき、漁業者の皆様方の不安に応えられるようにしっかり支援させていただきたいと思う。

(要望)

- ・ 宮古や石垣島のほうにも軽石が漂着しており、やはり漁業従事者の皆さんから不安の声があること。離島の周辺離島は生活航路も含めて、人材不足も含めてかなり厳しいところがあるので、状況に応じてぜひ支援をお願いしたい。
- ・ 先ほどおっしゃっていた、こし器の件であるが、もともとついていない船が結構多く漁業者の負担は大きいものがあり、県も工面をして支援したいという意向なので、ぜひそこは後ろ盾になっていただき、皆さんが安心して漁に出られるようにしていただきたい。
- ・ 漁業共済に入っているのは3割くらいであることから、漁業共済に入っていない人たちに対する長期休業補償をぜひ実施していただきたい。漁港内は軽石が大体回収されてきているが、沖合はまだ漂流している。これは農林水産省ではなく国土交通省の管轄のようであるが、沖合に漂流している軽石を回収していただきたい。そうすれば漁船のエンジントラブルも起こらない。沖縄はちょうど12月からソデイカが解禁になって漁が始まっているが、沖合で軽石の漂流があって心配で漁に出られないというような状況があるので、その点はよろしくお願いしたい。
- ・ これは議会活動ではないが、自民党幹事長及び菅前総理にも沖縄の軽石被害を視察していただき、やはりこれは政治的にしっかりやらないといけないという、そういう強い思いを持って対応していただいております、国におかれてもしっかりと対応方よろしくお願いしたい。

○ 沖縄及び北方対策担当大臣 西 銘 恒三郎

沖縄及び北方対策担当大臣不在のため、黄川田仁志内閣府副大臣へ手交した。

(内閣府副大臣 黄川田 仁志)

照屋団長はじめ沖縄県議団の皆様、本当に遠いところからお越しいただき感謝申し上げます。

実は私ダイバーでもあり、沖縄も大好きで、議員なってからは残念ながら沖縄でダイビングできていないが、沖縄の海がああいう状況になって非常に心を痛めている一人である。私はもともと海洋環境の研究者だったこともあり、軽石が大量に来るというのも非常に驚いているところである。今は副大臣の立場であるが、政治家になっても引き続き海洋政策、海洋環境を国会議員としてずっと取り組んでいる。国土交通省と環境省が中心になるとは思いますが、いろいろな段階がある。まず軽石を除去というところ、除去したら観光

に、いろいろなところに被害があるのでそういうところの損失補填をというように国としてどのようにカバーしていくか、またせっかく回収した軽石をそのまま捨てるのがいいのか何か再利用できるのか、いろいろ研究やアイデア募集もやっているようなので、そこでどうお手伝いできるのかなど、いろいろな形で連携してやっていきたいと思っている。西銘大臣は沖縄選出の大臣でもあり、しっかりと御要望を承り西銘大臣をサポートしつつ私も頑張っていく。美しい沖縄の海をまた取り戻すようにこちらもやっていきたい。

(質疑応答)

Q 今回、特に内閣府沖縄担当ということでお願いしたいのが、船のこし器の補助について一括交付金を充てていただけないかということである。こし器を入れることによって漁に出ることができる。また、既に政府のほうで市町村が支出する経費の2分の1を特別交付税で措置するという方針を立てているが、2分の1でも市町村はかなり財政負担が伴うので、このかさ上げも災害でもありぜひ大きくバックアップしていただきたい。

・ また、八重山圏域においては、さらに小規模自治体である竹富町や与那国町は財政上かなり厳しい面もあるので、ぜひ自治体のほうに特別交付税措置の支援をいただきたい。宮古島や石垣島、さらに小規模離島のほうに軽石が漂着しており、その離島航路、住民の生活の足にかなり影響が出てくると思われる。これから観光のほうでダイビング船にも大きな影響が出てくるのではないと思われるので、観光面での御協力もお願いしたい。

例えば石垣で一番有名な川平湾にグラスボートがあるが、その砂浜も今軽石が漂着しており、毎日業者や地元の方が朝7時ぐらいから総出で軽石を除去して修学旅行生や観光客を迎え入れているということを繰り返している。離島では役場の職員なども行って、そこで地元の人と一緒に回収しているということをやっている。

A かなり広範囲でもあり、何か感覚的には長期戦も考えてやらなくてはいけないような感じがする。

Q 現在、県で41市町村の被害状況を全部集約しているが、まだ実態が分かっていないというのが現状である。県の予算として軽石対策で27億円を議会で可決するわけであるが、せんだって茂木幹事長が来沖し被害の状況を視察をされた際に、今国会に全国の軽石対策の予算として184億円を計上してあるというお話を聞いたが、その内容、あるいはまた今後長期的になることも予測されるため、今後の対応について、もしお分かりであれば教えていただき

たい。

A 補正予算について、国土交通省の港湾が大体60億円程度、農林水産省の漁港が45億円、環境省の海岸が79億円を計上している。ただ、今のところ大部分が恐らく沖縄と鹿児島であって、こういう形で補正予算として参議院で審議いただいているという状況である。

(要望)

- ・ いろいろな仕組みができる前に、市町村が前倒しで先行していろいろ補助を出したり、直接的に支援している部分もあるので、そういうことをぜひ一括交付金なり、先ほどの特別交付税なりを使って対応ができるようにしていただきたい。今市町村から切実な声が上がっているところである。
- ・ コロナ対策も含めて国家財政は厳しいと思われるが、ぜひ引き続き御支援をお願いしたい。

○ 環境大臣 山 口 壮

環境大臣不在のため、務台俊介環境副大臣へ手交した。

(環境副大臣 務台 俊介)

私も沖縄に行き、恩納村の一時的に集めている場所も見て、随分大きな影響が出ているということを改めて感じた。しかし、影響はあるけれども軽石は自然のものなので有害ではない。そういう意味では、海岸に漂着した軽石をみんなで片づけることでビーチをきれいにする、そのような活動を、特に子供たちに一緒になってやってもらおうと環境教育の面でいいかと思っている。いずれにしても、日常生活にも大きな影響が出ているので、できるだけ早く回復できるように我々も予算をしっかりと確保する。過去最大の79億円のうちの相当部分が沖縄に行くことになると思われるので、やるべきことを全てやっていただきたい。

また、サンゴへの影響も専門家としっかり意見を聞きながらやっていきたいと思う。漂着した軽石の活用についてもいろいろなアイデアが出ている。盆栽の石に使えるのではないかと、養殖でふんを吸着する吸着剤として機能するのではないかとということで、結構引き合いもあるようである。思わぬ災害なので、こういうものをどうやってクリアするか、政府を挙げてやっていきたい。

今回、総理の所信表明の中に、軽石対策をしっかりやっていくということをお我々が申し入れて、入れてもらったところである。

(質疑応答)

Q この間は恩納村の現場も見ていただいたということなので、状況がどうかというのは本当に把握しており、心強く思っている。先ほどおっしゃった予算を環境省が9割でつけているので、それぞれの海岸管理者がそれをうまく使ってということで、軽石の回収は非常にうまくいっていると思う。これからサンゴへの影響等、かなり長期化することになるかと思われる。ぜひ安定的にこの予算を配慮いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

A そちらのほうは環境省の所管になってくるので、省としては丁寧に、しっかりやっていきたいと思う。

Q 沖縄県の漂着ごみが3000トン余りと言われているが、その半数が八重山に漂着する。ただでさえ漂着ごみが多い上に、今軽石が漂着している。本当に海岸が一番の観光資源であり、そこが漂着ごみと軽石で覆われているということについて、ぜひ小さな自治体でもあるので、財政的な支援も含めてお願ひしたい。

ようやくコロナも収まってきて、観光業もいよいよスタートという時期にこういったことが起きてしまい、観光のホテル業者が悲鳴を上げている状況なので、一日も早くこの問題を解決してあげたいと思っている。

また、海岸線は機械が使えないということで回収が難しく、ボランティアの人手で回収しており、そういう面でいろいろ支援をお願ひしたい。

A 港湾や漁港はそれぞれ所管省庁が責任を持ってやるが、特に長い自然海岸をどうやってやるか、これは人手でしかない。先ほど少し言ったが、子供たちに軽石ボランティア、修学旅行でさせるといいと思う。最近自分でブログを書いて私のホームページにそれを提案したところである。文科省にも話をし、官房副長官にもそういう話をしている。場合によっては公費—G o T o 軽石キャンペーンなどいいのではないか。

ウィークデーは修学旅行の子供たちが軽石ボランティアツアー、土日は一般の観光客に来てもらう。そうするとすぐ片づくのではないか。大人になってから僕らがきれいにしたビーチにもう一回行きたいとなる、リピーターになる。教育旅行的なものでG o T o キャンペーンをやったらいいのではないかと考える。

Q 息の長い御支援をお願ひしたい。

○ 防衛大臣 岸 信 夫

防衛大臣不在のため、中曽根康隆防衛大臣政務官へ手交した。

(防衛大臣政務官 中曽根 康隆)

照屋団長をはじめ沖縄県議会議員の皆様には防衛省にお越しいただき、心から感謝を申し上げます。

また、日頃から我々防衛施設をめぐる様々な諸問題もあるが、その対応に関して皆様には多大な御尽力を賜っていることに御礼を申し上げます。

福德岡ノ場の噴火により発生した大量の軽石によって船舶の航行、または漁業、こういったものに影響が出ているということは重々承知している。本日は団長をはじめ皆様の要望をしっかりと承ってお話を聞かせていただきたいと思っている。

自衛隊としては、前提として災害派遣の場合には自衛隊法第83条が根拠になってくる。御案内のとおり、事態がやむを得ないと認める場合に部隊等を救援のために派遣することができるということになっている。具体的に言うと3つあり、1つが緊急性—差し迫った必要があるかどうか。2つ目が非代替性—ほかに手段がもうないのか、最終的にもう自衛隊しかないのかというところ。3つ目が公共性—公共の秩序を維持するという観点から適正かどうか。こういった3つのポイントを総合的に勘案して判断をするというのが、先ほど申し上げた83条になる。

沖縄県におけるこの大量の軽石の漂着について、もし災害派遣ということになる場合は、今申し上げた3点、これをしっかりと踏まえた上で派遣をすることになる。そこはしっかりと状況を見極めていかなければいけないと思っている。

いずれにしても、もし自衛隊に要望される場合には、県と部隊とでよく調整していただくということになると思うので、御承知かと思うが、改めて私からもお伝えさせていただきたい。

(質疑応答)

Q 今軽石対策については、県を中心に41市町村の中で18か19くらいの市町村が関係しており、当然その海岸や漁港などの軽石の撤去については、それぞれの市町村を中心に対応しているところである。所によっては地域のボランティアで軽石を回収するというところになっており、先ほど政務官からもあったように、今の時点で緊急的に自衛隊に御支援をお願いするという段階ではないけれども、今後、軽石の状況がどのように推移していくかということも含めて、県議会として万全の対策を取っていこうという、そのような趣旨で

議決をさせていただいている。

幸い環境省を中心に、農林水産省あるいは国土交通省も含めて予算措置をしていただき、現在の国会においても軽石対策の予算が計上されているところである。私どもは当面の被害の解決をしながら—それぞれの市町村から具体的な金額や内容等も含めた対策がまだ示されていないので、そのことも含めて対策を取りつつ、いざというときに自衛隊の力添えもいただきたい。そのような趣旨であり、ぜひよろしくお願ひしたい。

A まさに今おっしゃったとおりで、毎日のようにテレビでやっており、この問題に関しての国民的な関心も高く、そういったことも踏まえて軽石の対策が予算にも入っていると思う。ただ、今後どのようなようになるか分からないのはもちろんあり、先ほど申し上げたように、圧倒的な緊急性が、またはこれはもう自衛隊でなければどうにもならないというようになれば状況が変わるので、そのときにはぜひとも、知事はじめ地元部隊とお話いただいて、必要な手続をしていただければと思う。

いずれにしても、真摯にこの要望書は受け止めさせていただくので、これからもよろしくお願ひしたい。

以 上

別紙

要 請 日 程

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和3年 12月16日	木	19:00 } 21:10	那覇空港発（JAL918便） 羽田空港着	
12月17日	金	10:15 } 10:30	農林水産副大臣 武 部 新	副大臣室
		14:20 } 14:35	内閣府副大臣 黄川田 仁 志	大会議室
		15:10 } 15:25	環境副大臣 務 台 俊 介	副大臣室
		16:15 } 16:30	防衛大臣政務官 中曾根 康 隆	省議室
		19:55 } 22:40	羽田空港発（JAL925便） 那覇空港着	